

健康福祉課

問 デイサービス岳の湯の今後については。

答 村内の他施設の開所状況が変わってきており、土日の開所についても検討課題。

問 母子家庭等日常生活支援事業の内容は。

答 母子、父子家庭を対象として保育士派遣による保育を実施するもの。県内で4番目の事業化。

住民課

問 ごみ処理対策委員会の開催状況と委員会構成は。

答 委員会は26年度に立ち上げ、公募委員3名のほか、観光局、事業所等の方で構成している。

農政課

問 震災時の農地パトロール状況は。

答 震災直後は危険がともなうため村職員が中心になっておこなった。農業委員には、情報提供や地権者からの相談業務を依頼。

問 産地づくり対策事業の加工たまねぎの試験栽培状況は。

答 村で初の試みとして試験栽培を実施。期待する収量はなかったが、継続していきたい。

問 小水力発電の売電収入の経理処理は。

答 収入は全額土地改良区に入る。今後の起債償還や施設改修、維持管理経費も見越して積み立ても予定。

建設課

問 未登記村道用地確定事業の対象路線と状況は。

答 26年度は和田野線の登記簿調査と地籍測量図収集をし、税務課とともに関係地権者への事業説明会をした。27年度は震災の影響で事業は休止、28年度から再開し31年度を目途に事業を進めていきたい。

問 児童向け遊具付き公園の検討は。

答 公園の必要性は認識しているが、着手していない。

観光課

問 平地観光施設にもう少し予算をかけるべきでは。通年でコンスタントに誘客できるように考えてほしい。

答 現在ある施設を最適な状態にして、お客様への環境づくりを優先して予算執行している。宿泊に結びつく観点で検討し、観光地経営計画にも盛り込んでいきたい。

問 白馬駅前前の観光案内と無料休憩所は1か所に集約して経費節減を図れないか。

答 無料休憩所は地元の協力で開設しているもの。課題はあると思うので、引き続き検討していきたい。

問 ナイトシャトルバスの事業主体が村に変更になった経緯は。

答 運行事業は従前通り観光局に委託。運賃収入は村に入れ、事業全体の費用を委託料として観光局へ出すことが望ましいと村が判断し変更。

問 観光地経営計画の情報の出し方は。

答 観光地経営計画の情報は、関係機関や関係者へ提供している。

問 会議録の公表が遅れている。速やかに公開してほしい。

答 外国人観光客向け白馬村滞在のしおり作成の効果は。

問 コンパクトになり宿側からは渡しやすくなった、警察からは大きなトラブルはなく迷惑行為件数は減っていると聞いている。それなりに効果はあったとみている。

答 オリンピック記念館改修後の来場者の反応は。

問 来場者数は伸びていないが、1施設でまとまった展示を見ることができ、満足度は上がっていると思う。今後も宣伝に努める。

問 学校給食検討委員会での検討内容は。

答 村全体としての給食施設について検討するということで、南小PTA単独での検討はしていない。委員会には各小学校のPTAも入っている。

問 公共下水道整備と合併浄化槽補助の区分けについては。

答 平成18年度で公共下水道の管きよ整備は終了、残りは合併浄化槽で整備する方針。

問 給食調理員の賃金などの待遇状況は。

答 職員は公社派遣、臨時職員で、人数は減らしていない。派遣法の改定により、28年度からは全てが嘱託職員扱いになる。

意見 調理員は子供たちの命を問わず専門職で、自治体の正規職員として雇用しているところもある。重要な職であることを念頭に待遇を考えていただきたい。

上下水道課

問 公共下水道整備と合併浄化槽補助の区分けについては。

答 平成18年度で公共下水道の管きよ整備は終了、残りは合併浄化槽で整備する方針。

▽委員全員の賛成により認定。



建設が待たれる共同調理場